

■ ルーラルエリアに適した光アクセス設備構成技術

2013 年（平成 25 年）

今後、光サービス展開が予定されているルーラルエリアにおいて、効率的な設備構築を可能とするため、広域かつ需要散在という特徴（図 1）に合わせ、従来より小規模な配線ブロックの設定により設備構築量を最適化した光配線設計技術（図 2）や、従来と比較して効率的なケーブル布設を実現する簡易布設技術やそれらを実現するための細径軽量な新 24 心光ケーブル、および関連物品を開発しました（図 3）。

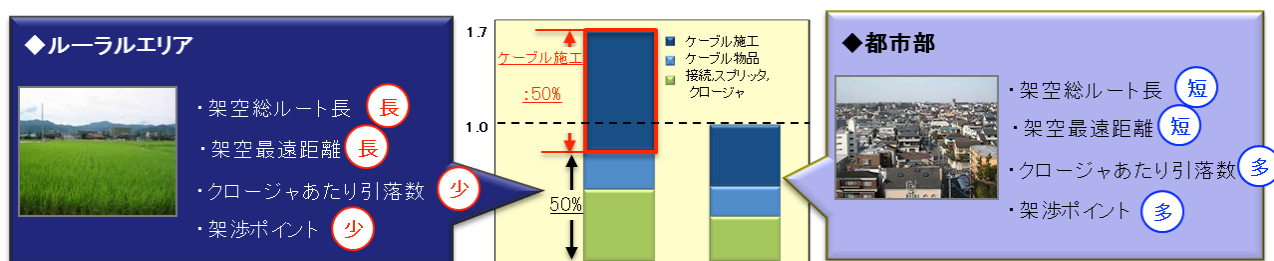


図 1 都市部とルーラルエリアの特性および設備構築コストの違い

配線ブロック規模

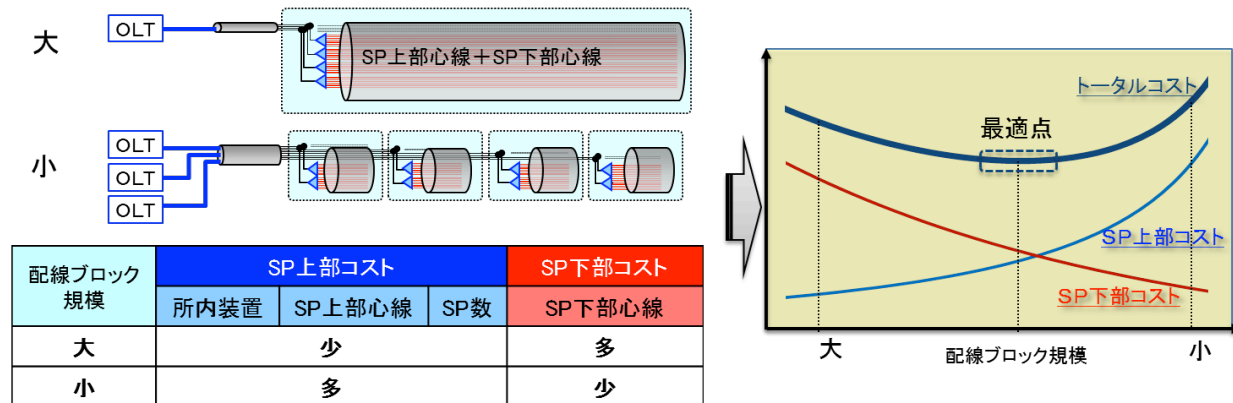


図 2 配線ブロック規模とコスト傾向

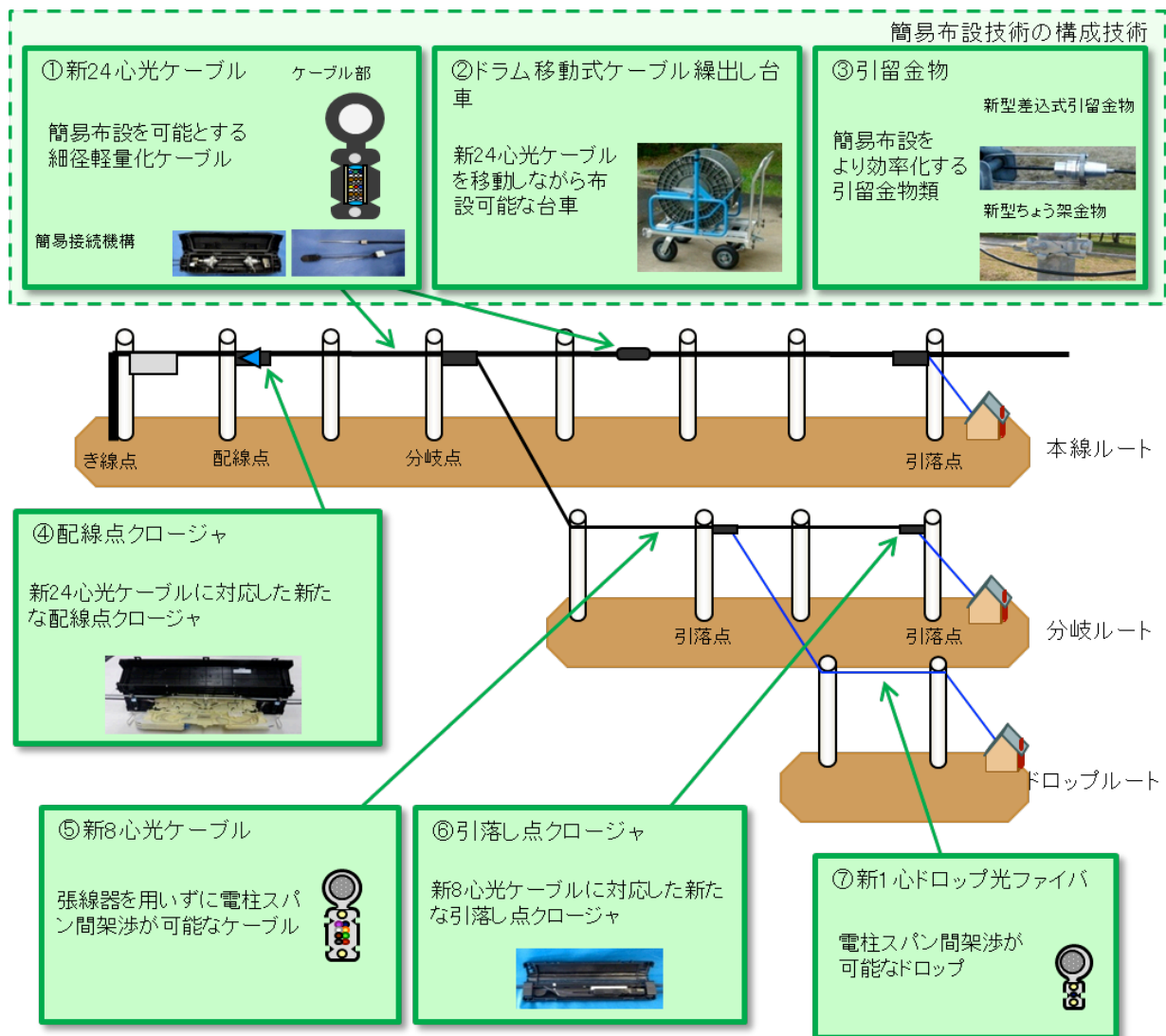


図3 開発物品一覧